

観光大使レポート

奨学生番号(P253840) 宮田 真帆

滞在先：アイルランド ドロヘダ

留学先について

私は、日本から約 20 時間程度アイルランドのドロヘダで留学をしました。ドロヘダは、住宅地で、首都のダブリンへ電車やバス、車で 1 時間程度でいけるので、日本で言う東京を支えるための郊外にあたるのかなと思います。そのような点では、街としての役割は埼玉にとっても似ているなど感じました。



ドロヘダの街並み

私はドロヘダの Bettys town という場所に住んでいたのですが、Bettys town は、日本で言うニュータウンのようなところで、同じ外観の家がたくさん並んでいて、私が住んでいる間も、開発は進んでいて新しい家が建築されていました。治安はよく、21 時頃まで明るいので、公園で子供たちがその時間帯まで遊んでいる姿をよく見かけました。

気候

私が留学した時の季節は夏でしたが、気候はとても涼しく、大体 20°C 程度で、体感結構寒いくらいでした。現地へ行ってからセカンドハンドのお店でスウェットを調達したぐらいです。しかし、片袖やノースリーブを着ている人が 5 割ぐらいいて、現地の人はむしろ暑いと感じているようでした。

雨は突然降りますが、すぐ止みます。過ごしていく上で、折り畳み傘やレインコートは必須です。(このような雨を shower や lashing と表現するみたいです。) ジメジメしている感じはなく、とても過ごしやすかったです。

7 月初めに 27 度の今年一の暑い日を経験しました。日光を浴びるために、沢山の人がビーチや家の庭、公園で日光浴をしていました。少ない晴れの暑い日をこのように外で過ごすのは、日本ではあまり見られない文化なのかなと感じました



雨の後には虹がかかります。

観光大使として

語学留学先のクラスはラテン系の方が多く、前半 9 名、後半 12 名の学生が在籍していたので、クラス全員と仲良くなって日本の文化を含めた、埼玉県についての写真を見せながら一人一人とお話することができました。東京についてのイメージはなんとなくあるみたいですが、埼玉については、あまり知られていないようです。

特に興味を持ってくれたこととしては、川越の街並みと有名な食べ物の話です。川越が物流地点だったために、日本らしい蔵造りの建物の他に、ヨーロッパの様式建築も混在していて、川越の風景が歴史を表していることに関心を寄せてくれました。また、さつまいも好きの友達が、たくさんのさつまいもスイーツがあることにすごく感動していて、食べてみたいと言ってくれました。

ドロヘダでは、日本人が珍しいようで、日本の文化や言語にすごく興味を持ってくれた印象です。街を歩いていると、日本のTシャツを着た人にたくさん出会いました。世界から見たら、すごく小さな島国ですごく離れているはずなのに、こんなにも日本の文化にたくさんの人が興味を持ってくれることをすごく誇りに思ったし、もっと日本の素敵なところを伝えたいと思いました。

友達には、日本に訪れた際は案内してほしいと言われたので、今後、日本や埼玉についてももっと勉強したいなと思いました。

留学を終えて、考えたことは、持っている語彙の中で自分の考えをどのように伝え、相手の意見を聞き入れるのかということ考えた3ヵ月でした。背景や生きてきた世界が違う中で、互いに認め共感し合えることに幸せを感じました。今回の語学留学を通して、自信と勇気と何よりも一歩踏み出した自分のことが好きになれました。

留学を支えてくださった方々に感謝を申し上げます。